全国学童保育連絡協議会

日本の学童ほいく 普及拡大ニュース

みんなで読もう！ 目標 3万4000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2023年8月7日

元気が出るみんなの取り組みをご紹介

楽しく普及拡大

リアル開催のイベントをきっかけに読者の輪も広がっています！

一人ひとりを結び付ける購読のつながりと広がりを生かそう！

茨城県の取り組み

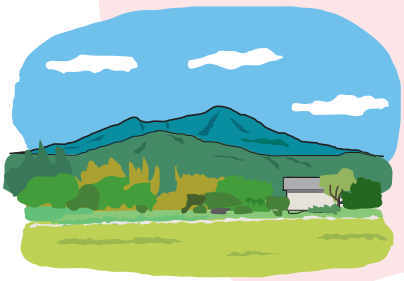
久しぶりのリアル開催イベントで、新しい参加者と読者が！

茨城県連協ではコロナ禍によって、年間の最大イベントである「茨城県学童保育のつどい」が2020年度は中止、2021年度にはオンライン開催となっていましたが、2022年10月には、約3年ぶりにリアルで開催することができました。午前中は講師の北島尚志さんの講演「コロナ禍における子どもの遊びと心の育ちを考える！」に共感した後、午後は久しぶりに顔を合わせての交流会のなかで、コロナ禍でも大事にしていることなどを話しあうことができました。この「つどい」に11人で初めて参加した学童保育からは、2023年7月の県連総会にも代表が参加し、その後、ほいく誌の購読申し込みをしてくれました。久々の明るい話題です。

「継続は力なり」の精神でコロナ禍前の活動を復活させ、さらに前へ！

茨城県北部地区の指導員会では、ほいく誌の記事を読んだうえでグループ討論会を行うなどの活動を行っています。しかし、普及拡大や活用には、まだまだ「手数」が足りないと思っています。

思い起こすと、コロナ禍以前のイベントの際には、講師が執筆した本や『日本の学童ほいく』の見本誌などを並べて販売・普及活動をするのが、あたり前の見慣れた風景でした。2023年度の「つどい」（2024年2月予定）でも、ぜひ、さらに明るい雰囲気で購読拡大活動を行いたいと思います。



広い茨城県内には、全国指導員学校・北関東会場などをきっかけに購読を申し込んでくれた個人読者（指導員）が点在しています。県内の読者を増やすとともに、読者に研修やイベントに参加してもらい、また、各地域の情報発信者・活動仲間にもなってもらって、お互いに顔が見え、交流しあえる関係をつくりあげる地道な取り組みを、「継続は力なり」の精神で続けていきたいと思います。

日本の学童ほいく8月号

特集 やっぱりいいね！学童保育の行事

今回の特集では、「学童保育における行事」「保護者会・父母会の行事」を取りあげ、さまざまな学童保育での実際の取り組み、コロナ禍のなかで努力してきたこと・大切にしてきたことの交流を通じて、「子ども自身が積極的に取り組める、楽しく充実した行事の工夫や配慮」「保護者同士の関係をより深めあうことにつながる行事のあり方」などについて考えあいます。

全国学童保育連絡協議会

日本の学童ほいく 普及拡大ニュース

みんなで読もう目標 3万4000部

2023年8月7日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

読者の声

山形県天童市●指導員から

夏休みに行う“夏祭り”。子どもたちに「夏祭りと言えば、どんなお店がある？」と投げかけ、おうちの人と一緒に考えてもらい、数日後にアイデアを出してもらいました。お店の名前のほか、話が脱線しつつも、やってみたいことが多く出されました。なかには「チョコバナナ屋さん」もあって、とてもいいアイデアだったのですが、手づくりの食べ物は自粛していたため、見あわせることに……。そして「射的屋さん」「輪投げ屋さん」などが名を連ねるなか、「お化け屋敷」もラインナップされました。はてさて、ワンフロアの施設で、どう暗闇をつくりだすか、指導員間で話しあいを重ねた結果、和室部分を使用することに決定。カーテンを閉め、電気を消すと、薄暗い空間に様変わり！ここを使ってどんなお化け屋敷にしたいか、子どもたちと一緒に考えました。道をつくるには壁が必要ですが、大きいついたては学童保育にはないし、安全面でも気がかりです。そんなとき、「大きめの段ボールがよいのでは！？」とひらめき、さっそく、学童保育のOBで電気店を営む方に相談すると、快諾してくださって、大きい段ボールを4、5個いただくことができました。当日は、楽しみでテンションマックスの子どもたちに圧倒されつつも、いつもと違う雰囲気を楽しみました。準備の段階で装飾づくりに楽しみを見出した子、受付でお客さんをていねいに接客した子、お化けになりきった子など、さまざまな姿を見せてくれた子どもたちでした。

『日本の学童ほいく』2023年8月号「笑顔あふれる行事をみんなで!」より

滋賀県日野町●指導員から

コロナ禍のなか、これまで行ってきたキャンプや、県外への遠足などがすべて中止となりました。マスクや黙食など、さまざまな制限を設けざるを得ず、子どもたちもあきらめることが「普通」になっていました。

そこで、「なにか子どもたちが楽しめることを計画できないか」と指導員間で相談し、「屋台村」を企画しました。「あそび」をテーマに、異なる学年の子どもたちで構成したグループが手づくりのお店を準備します。輪投げ・射的・ヨーヨー・千本づりなど、子どもたちがお祭りの屋台でやってみたことのあるものが並びました。

あらかじめ、子どもたちと指導員で相談しながら購入した景品も、子どもたちが分けます。金額ではなく、子どもたちの「ほしい・ほしくない」で分けられたA～Cの景品も、一つの魅力となりました。実際にはじまると、お店屋さん担当とお客さんに分かれて、楽しそうな声が響きわたります。みんなが同じ物を使う場合は消毒液を置くようにしたり、なるべく距離をとるように声をかけあったり……。子どもたちも工夫して、提案してくれました。「コロナ禍のなかでも楽しめるように、やれることはしよう」とみんなが考えてくれているようで、とてもうれしかったです。

「屋台村」は大盛況！　翌年の春休みにも開催されました。卒所旅行をあきらめざるを得なかった高学年の子どもたちもが、「もう一度やりたいイベント」として、あげてくれたのがきっかけでした。その後もコロナ禍の3年間、毎年行うイベントとなりました。「新型コロナウイルス感染症」の制限緩和にともない、キャンプも解禁となりましたが、「屋台村」をつづけるかどうかは、現在、子どもたちと相談中です。

『日本の学童ほいく』2023年8月号「笑顔あふれる行事をみんなで!」より

私と「ほ・い・く・誌」

読者リレー執筆・今月は青森県八戸市から指導員の天摩百美子さん

私が勤務する学童保育では、子どもたちが登所する40分前に、指導員が着席して、毎日、『日本の学童ほいく』を項目ごとに音読リレーをしています。この本には、月のテーマにそった内容で指導員として子どもとかかわるうえで大切なことが掲載されており、とても参考になっています。アレルギーのこと、保護者とのかかわり、指導員の気持ち、そして法律のことなど、さまざまです。毎月、あらゆる角度からの「ネタ」がたくさん詰まっています。

指導員が音読してくれる内容に、「ウンウン、そうそう」とうなずいたり、真剣な表情で文字を追う指導員がいたりと、「想い」はさまざまなようです。

昔もいまも変わらない「子どもは子ども」。でも、昨今の自然災害、経済不況、コロナ禍と世の中は大きく変化して、困難な経験をしながら、そのなかで生きていく私たち。さまざまな家族の形態があり、その家族の大事な子どもを預かっている私たちの責任は容易なものではありません。十人十色、百人百色の個性を大切に、よりよい学童保育であるため、日々の学びと自己研鑽するために、ほいく誌にたどり着くのだと思います。安全で安心。そして、子どものあたたかい居場所づくりのためにも、子どもたちに心を向け、寄り添い、子どもたちの日々の成長を保護者といっしょに見守りつづけたいと思います。何はともあれ、私自身、毎日子どもたちから「パワー」をもらっていることに感謝しています。どうか、日本の未来の宝、子どもが幸せでありますように……と願って。

編集・発行　全国学童保育連絡協議会　〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1 本郷宮田ビル4階　TEL●03-3813-0477　FAX●03-3813-0765
E-mail●zghrk@xui.biglobe.ne.jp　http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou